

読んで・聴いて・歩いてたのしむ！

# 遊行の盆 うたまくら '11



さあみなさま踊るじゃないか  
やべら困んで輪になって

盆よ盆よと待ちなが盆よ  
盆がすぎれば秋がくる



「うたまくら」とは一和歌の題材となった名所・旧跡のこと。ここでは盆踊り歌の歌詞に登場する名所や地名の意味で使っています。

藤沢の夏、遊行の盆。今年も盆踊りの季節がやってきました！

遊行の盆の踊り歌には、藤沢の地で歌い継がれてきたふるい盆踊り歌の歌詞や、盆踊りの歴史を踏まえた唄、藤沢の名所にまつわる詩がたくさん取り入れられています。踊りのにぎわいのなかで耳をすませば、藤沢に暮らしたひとびとが愛した地名、自慢の名所が、いくつも聞こえてきます。歌まくらで、少しでも知っていただければと思います。

今年は震災という非常に辛い現実がありました。被災地の方々に、心よりお見舞い申し上げます。そして、今年遊行の盆の登場する、素晴らしい文化遺産、じゃんがら念仏(いわき市)を楽しむことで、少しでも支援になればと願っております。そんな気持ちもこめて、東北と盆踊りの特集をコラム欄に加え、今年のパンフレットを作成しました。

## 踊り念仏、念仏踊り、盆踊りとは？

踊り念仏、念仏踊りは、太鼓、鉦などの楽器をもつこと、念仏が歌詞に入ることが1つの特徴です。

- ・踊り念仏：念仏を唱えるのに踊りがついたもの。鎌倉時代一遍上人がはじめたといわれています。今回、披露される遊行寺の踊り念仏は、その流れをくむといわれています。
- ・念仏踊り：踊り念仏が民衆化のものとなり、娯楽要素も加わったもの。室町時代以降に発展しました。今回、披露されるじゃんがら念仏は江戸時代に発展した念仏踊りです。
- ・盆踊り：念仏踊りがさらに娯楽的になったもの。手踊り、輪踊りが中心で、歌詞も念仏にかかわらずさまざまです。西馬内盆踊りは、その美しさで有名です。

## 11年遊行の盆 開催情報

8/6 遊行寺 市民大盆踊り大会 16:00～

9/24 藤沢駅周辺商店街 遊行おどり(市民まつり) 遊行ばやしコンテストなど

歌枕 その一 小栗堂

小栗恋しや 照手の姫は  
夫のためとて 車曳く  
(遊行ばやし 第3番)

中世の物語・説教節の中で最も有名なのが「小栗(おぐり)」。暗殺された小栗は変わり果てた姿でこの世に戻ります。そんな夫を土車にのせ、供養の旅をする妻・照手姫。その姿は、人々の涙をさそいました。遊行寺の僧の導きなど、藤沢が物語の重要な舞台。この歌はよほど愛唱されたのでしよう。江戸時代の全国の盆踊歌を集めた有名な「山家鳥虫歌さかちよるふか」にも収録され、藤沢の盆踊り歌を代表する名歌となっています。

今も歌舞伎や宝塚で人気のオグリ。遊行寺奥の長生院(通称・小栗堂(地図d))は、晩年、照手が夫の冥福を祈った所とされ、関連遺跡も多数。今もフアン足音がたえません。侯野には「小栗塚(跡)(地図e)」もありります。

歌枕 その二 遊行坂

「ここは何処かと 駕籠衆に聞けば  
「ここが高し」 遊行坂  
(遊行ばやし 第2番)

東海道をゆく旅人がカゴかきにたずねると「ここがあの名高い遊行坂ですよ!」と誇らしげな答えが返ってきます。藤沢宿を拠点とする駕籠衆がもじりません。遊行坂(地図f)をのぼる彼らの息づかいが聞こえてくるようです。鬼平犯科帳「おしやべり源八」では、鬼平たちがここで大捕物を展開します。

遊行寺の脇を藤沢橋に抜ける旧東海道の遊行坂は、いまも交通の要所。正月の箱根駅伝では、復路8区屈指の難所として全国にTV中継されます。

歌枕 その三 藤沢宿

逢いはせぬかよ 東海道で  
一夜ごまりの旅の人  
(遊行ばやし 第6番)

遊行坂を下れば、そこが東海道屈指の宿場・藤沢宿の入口です。当時、宿場には、飯盛女(ゆしりおんな)と呼ばれる、いづなれば接待業の女性たちがおりました。時には、一日かぎりの旅人が忘れられなくなることもあったでしょう。街道を歩いていけば、ふとまた出逢うのではないかしらという切な歌詞になっています。盆踊りの輪の中で、なかなか会いにこない恋人にあてつけて歌うのにちょうどいい感じですよ。

永勝寺(地図g)には、珍しい飯盛女のお墓が残り、はかなく短命だった女性たちをむらう藤沢宿の人々の温かさが感じられます。遊行寺周辺には、宿場の面影をしのばせる感造りの建物も見られます。

歌枕 その四 西行戻り松

相州片瀨の 戻りの松は  
松は枯れても 名を残す  
(遊行ばやし 第5番)

藤沢の伝説の中でも、ひろく知られたもののひとつに、西行法師と「戻り松」の伝説があります。

昔、西行法師が旅の途中にこの松の下で出会った少女にどこへ行くかと尋ねたところ、「冬まいて夏かれ草を刈りにゆく(妻刈りに行く、という意味)」と見事な歌で答えられ、恐れをなしてここから都へ逃げ帰ったという話です。

歌の名人・西行法師を歌で追い返した片瀨つ子の活躍、「してやったり」という感じですね。もちろんこのエピソードは盆踊り歌に採りいれられました。

たいそう立派だったというむかしの松は枯れてしまいました。むかしをしのばせる何代目かの小さな松が立っています。



西行戻り松

歌枕 その五 江ノ島

わたしや江の島 浜風そだち  
潮の満ち干で 恋を知る  
(遊行ばやし 第4番)

今も昔も藤沢を代表する観光名所・江ノ島(地図i) やはり歌枕としてとりあげないわけにはいきません。

「わたしや そだち」というのは盆踊りの恋歌のパターンのひとつ。「田舎娘でも、恋のサインは見逃さないよ」といったかんじの歌です。江ノ島の夕風に焼けた湘南娘は、きつとむかしも魅力的だったことでしょう。

「江ノ島道」は遊行寺から石上、片瀨を抜ける参詣の道でした。遊行寺前にあった江ノ島神社の一の鳥居はそのスタートで、広重の浮世絵にもその立派な姿が描かれています。遊行おどりの会場となる遊行通り(地図j)もファミリー通り(k)も、旧江ノ島道なのです。



江ノ島の参道



地藏堂跡と聖絵片瀨のシーン

歌枕 その六 地藏堂跡

藤沢よいとこ  
踊りの名所  
(遊行ばやし 第7番)

一遍上人と踊り念仏といえ、なんと一週も遊行寺所有の国宝「一遍聖絵」に描かれた、片瀨の浜の踊り念仏のシーンが有名鎌倉に入ろうとして幕府に拒否された一遍上人たちは、片瀨の地藏堂で踊り念仏をしたところ、これが大ブレイク。数か月にわたるロングラン興行となりました。聖絵には、踊り念仏に熱狂するひとびとの表情が、イキイキと描かれています。

一遍上人と踊り念仏といえ、なんと一週も遊行寺所有の国宝「一遍聖絵」に描かれた、片瀨の浜の踊り念仏のシーンが有名鎌倉に入ろうとして幕府に拒否された一遍上人たちは、片瀨の地藏堂で踊り念仏をしたところ、これが大ブレイク。数か月にわたるロングラン興行となりました。聖絵には、踊り念仏に熱狂するひとびとの表情が、イキイキと描かれています。

本来仏教の修行だった踊り念仏は、中世のなかば以降、お盆に村々で踊られるようになりました。やがて江戸時代には、庶民の楽しみとしての性格をもつ「盆踊り」が全国にひろまったと考えられています。藤沢は盆踊りのふるさとなんだよとつい自慢したくなりますね。

一遍が踊り念仏を行ったという片瀨地藏堂跡(地図a)、湘南海岸公園駅そばにあります。素朴な公園になっていますが、盆踊りのルーツとして大事にしたい場所です。遊行寺では、保存会による「踊り念仏」や9月の「薄(すすき)念仏」などの踊りにかかわる行事を見ることが出来ます。



# 世界をめぐる東北盆踊りの旅

一遍上人と盆踊り・そして東北  
「盆踊り」が踊られるようになってから、だいたい500年くらいたつていて考えられています。西暦1500年位の室町時代の日記に、お盆に踊った記録が残っています。その前はどうかだつたでしょう？

盆踊りの元になったといわれるものに踊り念仏があります。藤沢の遊行寺は時宗という仏教宗派の一つですが、時宗を始めた方が一遍上人（いっぺんしょうにん）。一遍上人の一生を絵と物語で書いたものが遊行寺の保有する国宝「一遍聖絵」（いっぺんじりえ）です。約700年前に書かれたものが今でも残っているのですが、ここに、長野県や藤沢の片瀬で踊り念仏を行った絵があります。この踊り念仏が、色々な変化を経て、お盆行事とも合流し、室町時代に盆踊りになったと考えられています。

一遍上人は、東北から九州まで行脚をしています。祖父の墓をたずね、福島県白河の関を抜け、岩手の北上までいき、墓所のまわりで念仏したと一遍聖絵は描きます。この東北のシーンは丁度、長野の踊り念仏と、片瀬の念仏踊りの間になります。東北での踊りの記録はありませんが、その可能性に思いをはせるのも、楽しいですね。



## 世界をめぐる東北の盆踊り

東北は盆踊りの宝庫です。西馬音内、毛馬内、じゃんがら、ナニヤドヤラ、黒石よされ、相馬、三春、さんさ踊り、花笠踊り、あげればきりがなくらいです。

そんな東北の盆踊りの中でも、人気一番は西馬音内の盆踊りでしょう。その名は全国区。そんなこともあり、海外でも、アメリカ、フィンランド、フランス、韓国などで公演をしています。まさに、世界に向けて発信されている日本を代表する盆踊りの一つです。

じゃんがら念仏は、別の意味で世界を駆けめぐります。沖繩のエイサーをご存じでしょうか？沖繩を代表する盆踊りです。エイサーの起源は、袋中上人が福島から伝承したものといわれており、じゃんがら念仏が先祖ではないかという説があります。

そのエイサーは、沖繩からハワイへの移民とともにハワイに渡り、日系移民の盆踊りとしていまも大事に踊られています。非常にダイナミックな広がりですね。

福島からも、ハワイへの移民があり、同じく日系移民の盆踊りとして「福島音頭」が踊られています。この福島音頭は、相馬盆踊りが元になっていると考えられています。

いわきのじゃんがら、相馬盆踊り、いずれも今回の震災で非常に大きな被害を受けた場所で、長く踊りつがれてきたものです。

## じゃんがら念仏踊りの旅

福島のいわき市を中心に百以上の団体があるのが、じゃんがら念仏踊りです。私達（湘南盆踊り研究会）の旅の思い出を少々書かせていただきます。

まず、いくら調べても、じゃんがらの開催情報がみつかりません。そのはず。新盆の家々を巡るじゃんがらは、踊り場所も時間も決まっていないのです。しかも、各集落のじゃんがらは、広範囲に遠征します。私達は、親切な観光協会の方に車で案内していただきました。それでも、なかなかじゃんがらはキャッチできません。

必死の追跡が功を奏し、1時間ほどして無事合流。そのまま次の新盆宅に向かいます。ご案内がなければ、私達は広大ないわき平で途方に暮れたでしょう。待ち時間のスパーで「地元名産なんですよ」と教えられて買った「しそ巻き」。本当に美味でした。

新盆宅脇に整列したじゃんがらの一行は、「道行囃子」を奏でつつ庭先に招き入れられました。居間のご家族と仏様に挨拶し、念仏が始まります。激しく飛び跳ねつつ、力強く叩く太鼓・鉦。真剣な表情で踊る若者たちの顔に、すぐ汗が浮かんできました。中休みにはお酒やスイカの振舞を受け、じゃんがらメンパーもご家族と談笑。遠い昔から、いわきの人々はこうして互いに送り、送られる「環」をつないできたのです。福島。いわき。その名を聞くたび、あの日を思い出し、本当に心が痛みます。つむいできた環が、途切れずにつながること。支援の環が支えになることを祈っています。

